

## 令和5年度 学校自己評価中間報告

重点目標	具体的取り組み	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果・課題)及び後期の扱い	評価
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実)	教務課 (研究)	授業づくりのPDCAサイクルが機能し、教科指導の充実に結びついたと実感した教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	授業づくりのPDCAサイクルが機能し、教科指導の充実(指導案検討等)に結びついたと実感した教員の割合が  78%であった。	各部ごとに「指導案検討」を中心に研究が行われており、教員へのアンケートにより教科指導の充実に結びついたと感じているという結果になっている。ただ、実践を行い、整理会や改善授業へと結びついておらず、後期は、実行・評価・改善のタイムスケジュールを決め、しっかりと研究をすすめ、それにより教員自身の教科指導の充実へとつなげていきたい。	B
2	地域社会との連携	小学部	交流の前後で児童が主体的に活動していたかなどの変容が3段階評価で「とても見られた」「見られた」と答えた教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	3段階評価で「とても見られた」「見られた」と答えた教員の割合が、 100%であった。	小学部では、公民館の方との花植え、地域の保育園との交流、地域でのりんご狩りを行った。また、昨年度より継続して、地域の方による読み聞かせを1、2か月に一度行っている。保育園との交流では、初めは緊張している様子だったが、ペアや集団での活動を通して、園児と手を繋いだり、自分から声をかけたりといった主体的な姿が徐々に見られるようになった。後期の長寿園との交流では、意欲的に発表したり、自分から相手に関わったりする姿を目指していきたい。	A
		中学部 高等部	3段階評価で「大変よかった」と答えた教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	3段階評価で「大変よかった」と答えた教員の割合が 中学部では6回 83% 高等部では2回 100%	中学部では、公民館と関わる活動が2回、その他、キョーワの工場見学や駐在所訪問など地域社会と関わる校外学習を行った。活動の内容が「大変よかった」と答えた取り組みの割合が83%だった。これは、生徒が地域を知る、生徒自身の活動が地域とつながっていると実感できる取組であったため、このような結果になったと思われる。今後も、里山の学習や保育所交流などを予定している。 高等部では、すず分校祭での販売活動や音楽発表に向けてピアノ講師を招いた授業を行った。特にピアノ講師を招いた授業では、生徒が熱心にピアノの伴奏に合わせて楽器演奏を行った。今後、里海教育や地域の外部団体との交流を行っていく予定である。	A
3	安心・安全な学校づくり (メディア・ICTの適切な活用)	全学部	メディア・ICT機器の適切な活用に関する授業を行った回数が A 8回以上である。 B 7回である。 C 6回である。 D 5回以下である。	メディア・ICT機器の適切な活用に関する授業を行った回数が  11回であった。	教員に対するメディア・ICT機器についてのアンケートでは、「インターネットなどのルールやマナー」「家庭での使い方」「情報モラル」について4回授業が行われた。ただ、タブレット端末のアプリや、パソコンなどの機器の使い方についての授業が7回であり、まだルールやマナーの学習には至っていない。今後は、更に児童生徒の発達段階に応じて、メディア・ICT機器を安全に使っていく授業を行うことが求められる。	A